

令和7年度

学校図書館の活用にかかる

実践事例集

岩手県学校図書館協議会

令和7年度実践事例集の発刊にあたって

岩手県学校図書館協議会

会長 三浦 建成

今年度もまた、本協議会研究活動推進事業として「学校図書館の活用にかかる実践事例集」を発刊することができました。ご尽力いただいた各地区学校図書館協議会・部会をはじめとする関係の皆様、改めまして厚く御礼を申し上げます。

本事例集は、地域や児童生徒の実態に応じた学校図書館の活用に係る取組の好例が紹介されています。参集型の研究大会等の機会が減り、互いに実践を交流したり協議したりできる場も限られる中、本事例集は、読書指導や授業支援、図書館運営等について自校の学校図書館の充実や改善に結びつくものと考えております。

さて、学校図書館に期待される機能や役割はさまざまありますが、実際に見る光景に、ひとりで図書館に来て本を選び、静かに本を読み、時間が来ると実にすっきりした表情になり教室に帰っていく子がいます。その子にとって学校図書館は、慌ただしい学校生活の中で、夢中になって本を読んだり、ほっと息をつける場所であったりするのでしょうか。さまざまな思いをもちながら学校生活を送る子どもたちにとって、居心地の良い、また来たくなる場所としての学校図書館づくりも大切な視点です。本事例集には、まさにさまざまな取組が具体的な実践として掲載されております。手に取っていただき、環境整備やボランティアとの連携等々、自校の現状に応じたヒントが得られれば幸いです。

結びに、本実践事例集の作成に当たり、実践をお寄せいただいた各学校の先生方や学校司書の皆様、今年度の事業の推進にご協力を賜りました関係の皆様へ感謝と御礼を申し上げ、発刊にあたっての御挨拶といたします。

目 次

◆ 小学校 ◆

本に親しむ子供を育てる図書館運営	盛岡地区SLA 盛岡市立本宮小学校…1
図書館利用指導の工夫	岩手地区SLA 岩手町立沼宮内小学校…2
本に親しむ児童の育成を目指して	八幡平地区SLA 八幡平市立柏台小学校…3
進んで読書に親しむ児童の育成を目指して	雫石地区SLA 雫石町立雫石小学校…4
本に親しみ、進んで読書をする児童の育成を目指して	紫波地区SLA 紫波町立西の杜小学校…5
読書しやすい環境づくりのための連携について	花巻地区SLA 花巻市立南城小学校…6
読書への興味を高め、読書週間を育てる	遠野地区SLA 遠野市立附馬牛小学校…7
読書の楽しさや喜びを味わう児童の育成	北上・和賀地区SLA 西和賀町立沢内小学校…8
子どもたちの読書意欲を高める取り組み	胆江地区SLA 奥州市立真城小学校…9
読書に親しむ児童の育成を目指して	一関地区SLA 一関市立中里小学校…10
進んで読書に親しむ児童の育成を目指して	陸前高田地区SLA 陸前高田市立気仙小学校…11
児童が本に親しむための読書環境づくりを目指して	大船渡地区SLA 大船渡市立末崎小学校…12
読書の活性化を図ることで、本に親しみ、読書の楽しさ・喜びを味わわせ、心豊かな心情を養う	釜石・大槌地区SLA 釜石市立白山小学校…13
本に親しむ児童の育成を目指して	宮古地区SLA 山田町立豊間根小学校…14
読書に親しみ、進んで読書をする習慣を身に付けるために	下北地区SLA 岩泉町立岩泉小学校…15
本に親しむ子供の育成	久慈地区SLA 洋野町立林郷小学校…16
児童の「読みたい、知りたい」をささえる図書館運営	二戸地区SLA 一戸町立一戸小学校…17

◆ 中学校 ◆

- 学校図書館運営について
盛岡地区SLA 盛岡市立北陵中学校…18
- 読書活動の充実のために
岩手地区SLA 岩手町立沼宮内中学校…19
- 読書意欲を高めるために
八幡平地区SLA 八幡平市立西根中学校…20
- 「小中で読書に親しみ、安心して過ごせる図書室づくり」をめざして
紫波地区SLA 紫波町立紫波第二中学校…21
- 読書に親しむ生徒を目指して
花巻地区SLA 花巻市立東和中学校…22
- 読書活動を通して、夢拓く遠中生の育成
遠野地区SLA 遠野市立遠野中学校…23
- 本への親しみを高められる図書館運営の工夫について
北上・和賀地区SLA 北上市立江釣子中学校…24
- 読書することを『楽しい』と感じる生徒の育成-学校図書館の運営を通して-
胆江地区SLA 奥州市立水沢中学校…25
- 学校図書館の活用と実態と今後の課題
一関地区SLA 一関市立千厩中学校…26
- 豊かな心を育む図書館教育
陸前高田地区SLA 陸前高田市立高田第一中学校…27
- 図書館の利用率の向上を図る取り組み
大船渡地区SLA 大船渡市立東朋中学校…28
- 進んで読書に取り組む生徒の育成を目指して
釜石・大槌地区SLA 大槌町立吉里吉里中学校…29
- 生徒が本に親しみ、意図的に読書したくなる環境づくり
宮古地区SLA 宮古市立新里中学校…30
- 本を身近に感じられる図書室・取り組みを目指して
下北地区SLA 岩泉町立小川中学校…31
- 読書に親しむ生徒の育成～地域コーディネーターとの連携を通して～
久慈地区SLA 洋野町立大野中学校…32
- 読書に親しむ生徒を育成する取組について
二戸地区SLA 九戸村立九戸中学校…33

1 学校図書館の概要

本校は、児童数516名、22学級（特別支援4学級含）で、約12,000冊の蔵書を有している。図書館運営は、図書担当教諭2名、図書委員会児童、PTA図書ボランティア「みみずく」と「ふくろう」で行っている。

図書室は、1階新校舎に設置しており、全校児童に貸し出しを行っている。また、各学年に分館を行い、学年に応じた内容の図書や学習に並行読書に活用できる書籍を配置している。児童数に比べ狭い図書室を児童が利用しやすい環境になるように整備をしている。

2 具体的実践内容

本校の図書委員会は、多くの児童が本に親しむように様々な取り組みを行っている。

(1) 学年別クイズ作りへの取り組み

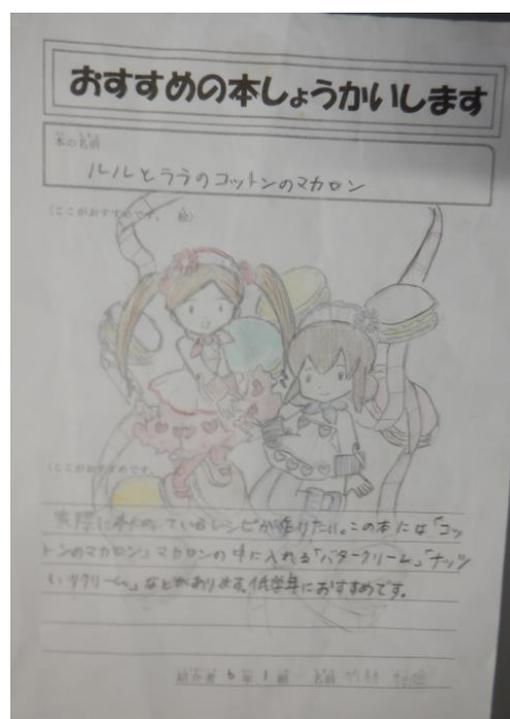
1学期と、2学期に1回ずつ、低学年、中学年、高学年向けのクイズの作成を行っている。委員会の児童がそれぞれの学年に合った書籍を選び、その中から興味をもちそうなところをクイズにする。クイズができれば、若葉ホールへ掲示し、応募ポストも設置する。昼の放送でも「楽しい本のクイズを作りました。ぜひ挑戦してください。景品もありますよ。」と宣伝することで、クイズに取り上げられた本にも興味をもったり、図書館に行くことが増えたりする企画である。

(2) 読み聞かせの取り組み

学期に1回ずつ取り組んでいる。それぞれの学級の図書委員が、低学年、中学年、高学年に人気のある書籍を選び、児童が興味を持ちそうな2～3ページを選択し、読み聞かせ練習をする。給食時に委員が1冊ずつ音読する。本に興味がない児童に、興味をもつように委員会の児童が選書している。

(3) おすすめの本の取り組み

書籍の好きな児童が自分が好きな本の題名や感想、どこがお勧めなのかを記し、掲示する企画である。「おすすめ本」を掲示すると児童は足を止め掲示を見ている。この企画で図書館に足を運ぶ児童が増えたと思われる。



3 成果と課題

(1) 成果

図書室利用を増やすための委員会の取り組みの成果が出て、児童の読書量や休み時間に図書室で読書をする児童が増えてきた。

(2) 課題

企画がマンネリにならないように、いろいろなアイデアを出し合い、さらに児童が図書館に来たくするような企画を委員会で話し合うことが大切である。

「図書館利用指導の工夫」

岩手地区 SLA 岩手町立沼宮内小学校

1 学校図書館の概要

本校は、児童数 233名、13学級(特別支援3学級含)で、10187冊の蔵書を有している。図書館は2階にあり、蔵書はすべてデータベース化されている。今年度は業間休み(月・水・金)と昼休み(月～金)に、図書委員会の子ども達がバーコードによる貸出業務を行っている。

図書担当は1名、図書委員会の児童は5、6年生 14名、そして図書支援員は毎週月・火の週2回、沼宮内小に来ていただいて貸出や書架の整理・月ごとにテーマを決めた本の展示や紹介・本の修繕・その他担任からの図書資料の相談に応じるレファレンスサービス・購入図書・寄贈図書の受け入れなどの業務を担っていただいている。

また、本校の読み聞かせボランティア「おはなしポポポ」8名による読み聞かせ、さらに各学年・学級にブックトークをしてくださるボランティア1名、町の読み聞かせボランティア「おはなし☆きらきら☆」による岩手町の伝説についての紙芝居など、本校の児童のために本の世界を広げてくださる方々に恵まれている。

さらに、岩手町の町立図書館から「おおぞら号」という移動図書館がだいたい月に1度学校にきてくれて、各学級で30～50冊の本を借りて、教室内で自由に手に取って読むことができる。

エアコンのない図書室は非常に過酷な環境で、PCのサーバーが連日30℃を超える暑さの影響で不具合を起こしてしまう状況が毎年続いていたため、今年度夏休み中は、日中スポットクーラーの冷風をサーバーに当てて冷やすように工夫した。6月～9月頃までは、とにかく図書館が暑くて、とてもくつろいで読書できる環境ではないので、急いで本を借りて教室に戻るとというのが現状である。

2 具体的実践内容

(1) 図書館環境整備

- ・分類番号や作者名の五十音順に書架の整理を進めた。
- ・低学年向け、中学年向け、高学年向けの物語の本はシールと棚のテープの色を合わせた。
- ・低学年向けの絵本は、五十音別にくだものシールで分かりやすくした。
- ・分類番号9の本はさらに色を分け、分類番号4の本は分野別に棚に表示をして配架した。



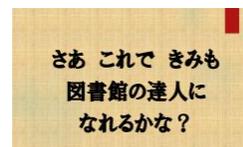
(2) 図書館利用指導

- ・図書担当(司書教諭)が、4月の図書館開館前に全学年に図書館利用指導を実施した。
- ・図書館の書架やテープ、シールの色についてパワーポイントの動画を視聴した。
- ・十進分類法による分類番号のしくみについても同時に指導した。
- ・個人の貸出バーコードをリニューアルし、本バッグに取り付けた。



(3) 学年ごとのブックトラックの利用

- ・新しい国語の教科書に紹介されている本を購入し、学年ごとのブックトラックに配架し、教室内や学年の廊下など子ども達がすぐに手に取りやすい環境を作った。



(4) 図書委員会企画「図書まつり」

- ・「先生方のおすすめの本」のコーナーに、本と紹介文を並べ貸出した。大人気のコーナーになった。
- ・「ポイントカード」や「分類番号ビンゴカード」など、期間中は行列ができるほど図書館がにぎわった。



3 成果と課題

(1) 成果

- 色で分類して配架したことで、本を書架に戻す目印がわかりやすくなり、本が乱れにくくなった。
- 図書館に本を借りに行くときには、本バッグを必ず使用するということが徹底されるようになった。
- 国語の時間だけでなく、ちょっとしたすき間時間にブックトラックの本を読む機会をつくれるようになった。

(2) 課題

●「図書まつり」の期間以外には、図書館に足を運ぶ子ども達はだいたい決まっている。日常的に図書館を利用する意識をもたせていくことの難しさを感じる。さらに、暑さ寒さに対応できない図書館の環境も大きく影響している。これは、図書担当の努力では解決できない。図書館環境の改善は難しいが、図書館の本やブックトラックの本やおおぞら号の本を手にとる機会を意図的に増やしていく地道な担任の努力と、図書担当の様々な工夫を今後とも続けていきたい。

「本に親しむ児童の育成を目指して」

八幡平地区SLA 八幡平市立柏台小学校

1 学校図書館の概要

本校は全校児童25名で、図書室は2階に位置している。図書の貸出しは基本的に昼休みに個人で行っているが、学級の実態に合わせ各学級で図書室へいく時間を設けている。週に1度、図書館司書が図書室の整備、学級文庫・新刊図書の選定や受付、新刊図書案内の作成・掲示等をしている。

2 具体的実践内容

① 朝読書の時間の設定（月曜・金曜各15分間）

② 年間読書目標冊数の設定・各学期の目標冊数の設定・多読賞の表彰

学 年	1学期	2学期	3学期	年 間
1・2年	40冊	40冊	20冊	100冊
3・4年	30冊	30冊	20冊	80冊
5・6年	15冊	15冊	10冊	40冊

貸出しカードの他に「読書の記録カード」に学級文庫等の読書の記録をする。

③ 図書館司書による読み聞かせ・図書館指導

低学年、中学年は週1回、国語の時間に読み聞かせを行う。

また、本の分類や並び順などを指導してもらい、本の選択や返却に役立てる。

高学年は、国語の単元に合わせ、本の紹介や並行読書の読み聞かせ等をする。

④ 読書月間の設定（6月・10～11月）

図書委員会が中心となり、図書室の本をたくさん借りる機会を増やす活動を行う。

- ・「読書のしずく」「読書パズル」などで、借りた冊数を見える形で掲示していく。各学級で目標を決め、取り組む。
- ・本の紹介カード作り・・・おすすめの本や新刊図書の紹介をする。
- ・秋の読書祭り・・・図書委員による読み聞かせやしおりプレゼント、本探しチャレンジなどの企画。



図書委員の読み聞かせ



「読書のしずく」



「読書パズル」

3 成果と課題

○各学級や図書委員会の取組、図書館司書の工夫により、多くの児童が図書室を利用し、年間目標冊数を超える児童が増えた。

△好きなジャンルの本は読むが、学級文庫にある教科書関連の本を手にする児童が少ないため、教科学習と関連させた読書の推進が必要である。

1 学校図書館の概要

本校は、全校272名である。図書室は2か所あり、1・2年生用と3～6年生用に分かれており、昼休みには図書委員による貸し出しを行っている。学校として週末読書を推奨しており、週末には必ず本を借りるという意識がおおむね定着している。

2 具体的実践内容

(1) 年間目標冊数の設定（低・中学年…50冊、高学年…35冊）

(2) 新しい本コーナーの設置

新しく入った本はわかりやすい場所に配置している。新刊は人気なため、1回の貸し出しにつき、1冊までとし、多くの児童が読むことができるようにしている。

(3) 図書委員会の活動

①おすすめの本紹介

・図書室に紹介コーナーを設置し、図書委員のおすすめカードとともに掲示している。

②本棚の整頓

・委員会の時間や貸し出しの時間に本の整頓を行い、環境を整えている。

③読書月間の取組（11月）

・読書の木…全校児童におすすめの本の紹介を書いてもらい、回収する。それを昼の放送で紹介し、掲示していく。

・読書ビンゴ…様々な本を読んでもらうための取組。本のジャンルやシリーズ名が書いてあるビンゴを行う。ビンゴすると、いつもは1冊しか借りることのできない新しい本を2冊借りることができる。

(4) 読書月間の取組（11月）

①親子読書週間

・親子で一緒に読書したり、読み聞かせしたりすることで、家での読書習慣を付けることに繋がったり親子で一緒に過ごす時間を作ったりしている。

②先生方のおすすめの本の掲示

・図書室内に紹介コーナーを設置し、様々な本に触れる機会としている。

(5) 読み聞かせの実施

①図書ボランティアによる読み聞かせ

・雫石町のボランティア団体「おはなしの雫」「おはなしドロップ」による読み聞かせを月1、2回実施している。

・年に2、3回は昼の放送の中でも読み聞かせをしてくださっている。

・低学年では、年に1回1時間（45分）の読み聞かせも実施している。

②PTAによる読み聞かせ

・PTA図書部の活動として、年1回読み聞かせを実施している。

3 成果と課題

○目標冊数の設定や週末読書の推奨により、積極的に本を借りている児童が多くみられる。

○自分で読むことが苦手な児童も、読み聞かせによって本に興味をもつことができた。

△冊数を増やすためにとりあえず借りている児童もいるため、自分にあった本を選べるような指導が必要。



「本に親しみ、進んで読書をする児童の育成を目指して」

紫波地区 SLA 紫波町立西の杜小学校

1 学校図書館の概要

本校は、全校児童193名の小規模校である。図書室は1階にあり、廊下を挟んで反対側には畳コーナーで絵本を広げて読めるスペースもある。図書室蔵書データはすべてデータベース化されている。開館時間は業間と昼休みで、本の杜委員会が貸し出しを行っている。また、学校司書が週に1度来校し、季節の掲示や図書の整備を行うなど、児童が本に親しめるような環境づくりを助けてくれている。

2 具体的実践内容

(1) 読書目標の設定・すき間読書の推奨

年間目標冊数を定め、その目標に向かって読書を行うよう、学期ごとに目標冊数を決めて自分の読書を振り返りながら進めている。年間目標冊数（低学年60冊、中学年45冊、高学年40冊）を達成した児童を多読賞として表彰している。ほとんどの児童が達成している。また、常に机の横の絵本バックの中に本を置いておいたり、各教室脇のクロークの本棚を利用したりすることで、活動の合間や給食や待ち時間等の短時間にすき間読書ができるようにしている。

(2) 家庭読書・親子読書

毎日10分の家庭読書の習慣が身につくよう、家庭学習と読書をセットで取り組むようにしている。長期休みは親子読書に取り組み、家庭内で読書の時間を共有する機会としている。親子で読書をした感想を書き、その様子を掲示することで、次の読書への意欲につなげている。



(3) ボランティアによる読み聞かせ・リクエスト本

毎週月曜日の朝活動を読書の時間とし、読み聞かせボランティアの方々に本の読み聞かせを行ってもらっている。発達段階や季節に合った本を選んでいただき、楽しく本に親しむことができている。

学校司書に、本校にない本を他校や町の図書館から取り寄せてもらう「リクエスト本」を取りまとめてもらい、読書の幅を広げられるようにしている。



(4) 委員会の取り組み

日々の貸し出しや本の整理の他に、4月と9月には低学年への読み聞かせを行っている。11月には「読書祭り」を開催し、本に関するクイズのスタンプラリーや読書郵便を通して、本を手に取り読む活動に取り組んできた。

3 成果と課題

<成果>○こまめに目標を確認することで、目標冊数を意識して読書を行っている。

○ボランティアや学校司書との関わりで、読書の幅が広がっている。

○委員会の催しを通して、図書室に沢山の児童が来室し、活発な図書室利用ができた。

<課題>・委員会の催しの時期を精選し、読書にじっくり取り組めるようにしていく。

・より進んで読書に親しめるような環境の在り方を考える。

1 学校図書館の概要

本校の児童数は410名、学級数は18学級で中規模校である。南側の日当たりのよい場所に図書室があり、各学年の廊下には学年文庫、また児童昇降口そばには自由に本を読めるスペースがある。充足率も100%を越えている。

2 具体的実践内容

(1) 司書との連携

令和6年度より、花巻市は学校図書館司書を配置している。本校には、週1回のペースで、来校してもらい、主に図書の整備を行っている。昨年度は、廃棄処理を進めた。情報が古かったり、複本が多かったり、傷みがひどかったりした資料の整理を、専門の方に行ってもらうことで書架にゆとりができ、子ども達が本を取りやすくなった。今年度は、季節の本コーナーを作り、定期的に更新している。また、国語科の学習と関連したコーナーも作った。写真は、4年生が作ったポップと、3年生が作った紹介カードと共に配架した本である。このコーナーはいつも人気で、子ども達は本を手にする意欲を刺激している。



(2) 図書ボランティアとの連携

本校では図書ボランティア「ピノキオ」が、読み聞かせと図書整備活動をしている。読み聞かせは週1回、ボランティアが教室へ出向き15分ほど行っている。

今年度は、年度当初に予定を決め、ボランティアが見通しをもって活動できるよう計画をした。読み聞かせは子ども達が楽しみにしている時間であり、今後も継続する予定である。

図書整備は、ボランティア・司書・学校図書担当で年度初めに打ち合わせをし、本校の図書整備の方針について話し合う機会を設けた。「傷みが進まないようにカーテンを半分閉めては?」「廃棄した本の活用方法は?」など話し合うことで、今年度の活動がスムーズに行われた。

3 成果と課題

(1) 成果

司書・ボランティアの皆さんと連携・協力することで、学校職員だけではできなかった読書しやすい環境作りができた。

(2) 課題

今年度は国語科において司書と連携することができたが、子ども達の学習において司書を活躍する機会を増やしたい。また、ボランティアの減少も課題となっている。ボランティアと協力しながら、活動の魅力を発信していきたい。

1 学校図書館の概要

本校は全校児童 27 人、5学級(うち特別支援学級2)の学校である。図書室は1階に位置し、隣に閲覧室を備えている。図書管理システム「スクールプロ」を利用し、昼休みに情報(図書・放送)委員会児童による図書貸し出しを行っている。また、月に1回程度、朝学習の時間に、保護者・地域の図書ボランティアグループによる読み聞かせをしていただいている。同グループの方々には、季節に合った掲示物により、図書室の環境を整えていただいている。



2 具体的実践内容

(1) 図書まつり

6月と11月に情報委員会児童の企画により実施した。6月は、本に関するクイズに正解すると「2冊借りられる券」をもらえるという企画だった。11月は、先生方・情報委員のおすすめの本の紹介と、一人ひとりの塗り絵を持ち寄って大きな絵を完成させるという企画で、どちらも児童が図書室に足を運び、読書に親しむきっかけとなった。

(2) 週末読書と長期休業中の親子読書

毎週金曜日は「週末読書の日」として、全校で読書に取り組んでいる。「週末読書カード」に感想を書き、翌週月曜日に提出するのが習慣化している。カードは、個人別に専用ファイルに取りまとめている。また、長期休業中は親子で同じ本を読む等して、親子で読書に取り組んでいただいている。どちらの活動も、家庭での読書活動となり、保護者との連携のもと読書意欲を持続させることができた。

(3) ブックバディ

低学年児童と高学年児童のペアをつくり、高学年児童は自ら本を選び、読む練習をして、低学年児童に読み聞かせを行うというものである。学期に1回ずつ行い、3学期は低学年児童が高学年児童に読んであげる予定。



<児童の感想より>

- ・自分で本を選ぶのも楽しかったし、どう読み聞かせれば分かりやすいかを考えながら読むことができました。また、いつもより感情をこめて読むことを意識できました。(6年女子)
- ・本を読んでもらってうれしくなって、わたしもいつか1年生とかに読んであげたいと思いました。やっぱり5・6年生は本を読むのがじょうずだなと思いました。(2年女子)

3 成果と課題

<成果> ・委員会児童による「図書まつり」、家庭との連携による「週末読書」「親子読書」、「ブックバディ」等、全校児童で読書に親しむ活動を展開することができた。

<課題> ・子どもたちが読む本のジャンルが「物語」に偏っている。様々なジャンルの本に触れ、読書の幅を広げさせたい。→今年度、必読図書を設定した「読書がんばりカード」を作成したが、十分活用できていない。

「読書の楽しさや喜びを味わう児童の育成」

北上・和賀地区 SLA 西和賀町立沢内小学校

1 学校図書館の概要

本校は、学級数 8（特別支援学級 2 含む）、児童数 57 名の小規模校である。図書室は校舎 1 階中央に位置し、蔵書数は約 6900 冊である。各学級には学級文庫を設置し、国語や各教科に関する図書も整備している。

2 具体的な実践内容

(1) 学習・授業を支える機能（学習センター）

○図書の購入

- ・蔵書数を把握し、職員や児童の希望をもとに、調べ学習に必要な本や課題図書を計画的に購入している。



(2) 読書活動を推進する機能（読書センター）

○読書の奨励

- ・年間読書目標の設定と表彰
学年ごとに目標冊数を設定し、達成者には「多読賞」を授与している。
低学年：1 学期 35 冊、2 学期 80 冊、年間 100 冊
中学年：1 学期 30 冊、2 学期 70 冊、年間 80 冊
高学年：1 学期 15 冊、2 学期 40 冊、年間 50 冊



・朝読書の実施

毎週月曜日の朝に 10 分間の読書時間を設けている。

・読み聞かせ活動

図書ボランティアによる読み聞かせを毎週金曜日に実施し、様々な本に触れる機会を提供している。

・読書まつりの開催

年 1 回（11 月末）に、読み聞かせ・紙芝居・ペープサート・手遊び歌等を通じて、本への興味を高めるイベントを行っている。

・「読書おもいで帳」の活用

図書室で借りた本を記帳できるため、毎月、更には入学から卒業までの読書状況を把握できる。



○家庭読書の推進

・週末読書の位置づけ

家庭での読書週間を促進するため、週末に読書の取り組みをしている。

・親子読書カード

長期休業中に親子で読書を行い、保護者の感想を記入してもらい取り組みを実施している。

○図書委員会の活動

- ・新刊、おすすめの本の紹介コーナーの設置
- ・読書週間イベント（今年度は、あみだくじ・くじ引きでしおりや 3 冊券をプレゼント）
- ・図書インタビュー（好きな本やおすすめの本を紹介）
- ・読書クイズ（読書まつりで実施し、関心を高める）

(3) 情報活用能力を育てる機能（情報センター）

○「図書館だより」の発行

- ・学期、長期休み前後に発行し、新刊・おすすめの本の紹介や親子読書の取り組みについて等を紹介している。

○新聞コーナーの設置

- ・新聞を常設することにより、社会への興味・関心を喚起したり、資料等を適切に扱う力を育てたりする場を提供している。

(4) 心の居場所としての機能（コミュニティの場）

- ・休み時間に読書をして静かに過ごしたい時には図書室を開放している。また、教室以外での学習の場や気持ちを落ち着かせる場所としても機能している。

3 成果と課題（成果○ 課題▲）

○目標冊数を確認する機会を設けたことで、児童が目標を意識しながら読書に取り組むことができた。

○読み聞かせや読書まつり、イベントの実施により、読書の楽しさや喜びを味わう機会が増えた。

▲読書冊数が少ない児童も本に親しめるよう、更なる工夫が必要である。改善策として、興味関心に応じた選書、図書室に行く日や週の設定、親子読書チャレンジや保護者向けの情報発信等が考えられる。

1 学校図書館の概要

本校は、児童数 196 名、10 学級（特別支援 4 学級含む）の中規模校で、学校司書が 1 名配置されている。蔵書冊数は、大規模な除籍を行ったため令和 6 年度末で 6929 冊と学校図書館基準の 7000 冊を下回っているが、今年度中には再び基準を満たす予定である。

2 具体的実践内容

(1) 図書委員会の活動「図書の森」

6 月と 11 月に開催している。6 月は、読書ラリー（低学年）・読書ビンゴ（中学年以上）、11 月は、2 冊貸し出しと先生方のおすすめの本の展示・紹介。本の表紙などを写したぬりえを作成するなど、図書室に来てもらうような工夫もする。



(2) ボランティアによる読み聞かせ

真城読み聞かせの会と昔話や地元の伝説を語り伝える団体水沢「プレアデス」の会のお話を聞く機会を年間 27 回ほど設けている。20 年以上続いている取り組みであり、児童に読書の楽しみと新たな本の出会いを提供している。



(3) 市立図書館の活用

学校司書が、市立図書館の団体貸し出しを利用していろいろな本をそろえ、さらに個人へ貸し出しできるように工夫している。5 月末から夏休み前までの期間は、リストの中から希望の本を選んでカードに書く「本のリクエスト」。それ以外の期間は、8 月と 3 月に取ったアンケートの結果から、希望の多かったジャンル・作者の本を優先的に選書し、学校の本と同じように図書室で貸し出しを行っている。



3 成果と課題

〈成果〉

ボランティアによる読み聞かせは、特に低学年で喜ばれ、同じ作者の本に興味をもつ児童も多い。「図書の森」の取り組みや定期的に市立図書館の本が置いてあることで、いろいろな本に目を向けたり、借りる本をすぐに決めたりする様子が見られた。図書室のどこにどんな本があるのかが分り、自分で本を見つける力も付いてきている。

〈課題〉

読書冊数の少ない児童への声がけとともに、もっと本に親しめるような蔵書の充実を目指していきたい。

「読書に親しむ児童の育成を目指して」

一関地区 SLA 一関市立中里小学校

1 学校図書館の概要

本校は、児童数 164 名、学級数 8（特別支援学級 2 学級を含む）の学校である。図書室は校舎の 2 階に設置されており、どの学級からも利用しやすい環境にある。本校の図書館教育の目標は、「多くの児童に図書に親しませ、読書の楽しさ・素晴らしさを味わわせる。」「学習や諸活動に役立つ図書や資料の充実を図り、児童の学習や生活に役立てることができるようにする。」である。これまで、児童が図書に親しむ工夫や、委員会活動などによる児童の自発的な図書館への働きかけを促すことを重点として行ってきた。

2 具体的実践内容

(1) 読書意欲・習慣化を図るための取組

- ア 年間図書利用冊数の目標設定
 - ・低学年 80 冊、中学年 50 冊、高学年 30 冊。
 - 達成者には目標冊数達成賞の表彰。
- イ 読書の木の取組
 - ・学期ごとの目標冊数を達成していくと、果物の木ができていく。
- ウ 市立巡回移動図書館「わかくさ号」
 - ・移動図書館を毎月利用し、様々な本を読めるようにする。



(2) 図書委員会の活動

- ア 図書委員おすすめの本紹介
 - ・各学年に合わせたおすすめの本を選び、ポスターを制作して紹介。
 - ・昼の放送時間にも紹介。
- イ 図書委員会主催の図書館まつり（11 月）
 - ・図書ポイントカードを作成し、本を借りるごとに 1 ポイントもらえる。5 ポイント貯まると、「本プラス 1 冊券」をもらえ、10 ポイント貯まると、図書委員が作成したオリジナルのしおりをもらえる。



(3) 使いやすく居心地のよい図書室づくり

- (図書ボランティア・読書普及員との連携)
 - ・季節に応じた壁面装飾の作成
 - ・季節・行事に関連した本を紹介する特設コーナーの設置
 - ・新刊図書紹介コーナーの設置

(4) 家庭との連携

- ・夏・冬休みの親子読書
- ・図書館だより（年 3 回）の発行



3 成果と課題

(1) 成果

- ・児童が主体となって活動する読書推進活動に積極的に参加することで、読書に親しもうとする児童が多く見られた。
- ・読書の木の取組など、自分の読書量の可視化を図ることで、年間図書利用冊数の目標設定を多くの児童が達成し、読書意欲の向上と習慣化につながった。
- ・図書ボランティアや読書普及員との連携をとりながら進めたことで読書環境の充実につながり、本の貸し出しだけでなく、本を読むために図書室を利用している児童が多い。

(2) 課題

- ・読書量や本を読む習慣、幅広い分野の本を読むことには個人差が見られる。個に応じた読書意欲を喚起するための手立てを工夫する必要がある。
- ・本校では今年度から「朝読書」の時間を設けていないため、読書をする時間がまとまって取ることができない。そのため、「隙間読書」をどのように指導していくか、どのように時間を取るか工夫していく必要がある。

「進んで読書に親しむ児童の育成を目指して」

陸前高田地区S L A 陸前高田市立気仙小学校

1 学校図書館の概要

本校は、児童数51名、7学級（複式学級1、特別支援学級2）の学校である。1階中央部が図書室のフロアになっており、どこからでも気軽に立ち寄ることができる。半円筒形の本棚は、内側がソファになっており、休み時間になるとゆったりと本を読む子どもの姿が見られる。図書委員会が、貸出の他に読書月間の運営など全校児童の読書意欲向上に関わる活動を行っている。

また、図書教育指導員さんが月2度来校し、図書整理や配架及び読み聞かせ等を行っている。

2 具体的実践内容

(1) 読書目標の設定

年間個人目標冊数（低100冊以上、中80冊以上、高45冊以上）、学級目標冊数（個人目標の合計）を設定している。学期ごとに読書量調査を行った結果を伝え、読書意欲の喚起を図っている。学年末には目標冊数を達成した児童に達成賞、学級に学級賞を渡している。

(2) 教科書関連図書コーナーの設置

廊下に教科書関連図書コーナーを設置し、並行読書に活用している。図書教育指導員さんのご協力に関連図書と同じ作者の本も配架し、児童の興味を引くことができた。



(3) 図書委員会の取組

- ・本探し大会（11月の読書月間）の企画と運営を行った。図書委員会作成のヒントカードをもとに縦割り班ごとに「本探し」を行い、見つけた本を班のリーダーが班員に読み聞かせた。
- ・読書ビンゴ（11月の読書月間）では、様々な分類の本に親しんでもらうために、ビンゴの内容を2類から9類、「いわ100きつず」や国語教科書関連の本を借りることとして取り組んだ。
- ・年2回（6月、11月）「休日読書カード」を配布し、家庭読書の結果（題名、作者、一言感想）を記録した。休日読書の本の中から「おすすめの本」紹介カードに書いて、図書室に掲示（各学年代表1枚）したり、「図書館だより」に載せたりして、児童の取組の様子を伝えた。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・読書ビンゴカードの内容を工夫し、いつもと違う本を読む機会となった。
- ・教科書関連図書に興味をもたせるための手立てを組み、児童が本を読むきっかけを作ることができた。

(2) 課題

- ・図書教育指導員さんと課題を共有し合い、児童が読書に親しむための手立てを実践すること。

「児童が本に親しむための読書環境作りを目指して」

大船渡地区 S L A 大船渡市立末崎小学校

1 学校図書館の概要

本校は、児童数 116 名、8 学級（特別支援学級 2 学級を含む）の学校である。図書室は、校舎 2 階に設置されている。本校には、市から図書ボランティアが派遣されており、蔵書管理や廃棄の補助、本の配置、掲示装飾等を行っている。

2 具体的実践内容

(1) 図書ボランティアの活用

図書ボランティアの協力のもと、教科の学習に活用できる「学年の本」コーナーに加え、「いわ 100」コーナーや「震災関連」コーナーも設置することができた。新書については、テーブルの上に並べたり、ブックスタンドに置いたりして、児童が本を手にとりたくなるような工夫をしている。



また、本棚やテーブルの配置を工夫することで、落ち着いた環境の中で読書ができるようにしている。

(2) 特定非営利活動法人「おはなしころりん」・市立図書館との連携

ア 移動こども図書館

年間を通して、移動こども図書館を利用し、「おはなしころりん」や市立図書館が選書する図書を各学級に配架することを通して、発達段階に応じて様々な本に触れることができるようにしている。

イ お話会

児童が本と親しむ時間の確保や、本に興味をもつための工夫として、年間 16 回程度、水曜日の朝活動の時間に、おはなしころりんが選書し、持参した本を教室で読み聞かせをいただいている。



(3) 図書委員会の取組

11 月に「図書祭り」を企画し、活動している。「図書ビンゴ」の取組で、ビンゴを達成すると、図書委員作成のしおりがもらえる。「図書ビンゴ」は、様々なジャンルの本を借りることを目的としている。

また、年間を通して、図書委員の選書による「おすすめの本コーナー」を設置している。面白い本、季節に応じた本など、テーマを決めて選書している。

図書ビンゴ		
年 名 姓		
※年を満んだら、その番号のマスに署名をかくしてください。		
9 絵本	3 社会科学	4 自然科学
5 漫画・児童文学	9 絵本	7 音楽・美術・体育
9 絵本	8 言語	6 歴史

※1ビンゴに当たったら図書室にけいひんをもちりにきてください。
(11月28日まで)

3 成果と課題

(1) 成果

ア 図書ボランティアの活用による図書室の環境整備や図書委員会の取組により、児童が積極的に図書室を利用している。

イ おはなしころりん・市立図書館との連携により、児童の発達段階に応じた様々な本に触れる機会が増え、興味をもって本を読む姿が見られる。

(2) 課題

ア 「必読図書コーナー」を設置しているが、児童の利用が思わしくない状況にある。児童に読書を好きになってもらうことを一番に考え、取組の方法や配架場所、選書など、検討する必要がある。

「読書活動の活性化を図ることで、本に親しみ、読書の楽しさ・喜びを味わわせ、心豊かな心情を培う」

釜石・大槌地区 SLA 釜石市立白山小学校

1 学校図書館の概要

本校は学級数3（1.2年複式、3.4年複式、5.6年複式）、全校児童35名の小規模校で、図書室は3階建て校舎の1階と利用しやすい位置にある。蔵書はバーコード化され、貸出・返却はパソコンで主に図書委員の児童が行う。図書室運営面においては学校地域支援コーディネーター、図書ボランティアの方々に支援していただいている。毎年本を寄贈して下さる方がおり、蔵書数も充分である。

2 具体的実践内容

（1）図書館教育

貸出・返却はパソコンで行うが、記録のため「読書カード」に書名・返却日・感想を記入している。また、低・中・高学年ごとに目標冊数を設定して、学期ごとに多読賞を授与する。今年度より「こんな本読んだよカード」を月1～2回実施・掲示し、読書活動のさらなる活性化を図っている。

（2）図書委員会の活動

日常活動として本の貸出・返却と週1回の図書室利用を勧める放送をし、学期末は多読賞表彰式の進行も行う。6月と11月の読書月間は図書委員会の児童による読み聞かせや「図書クイズ」等を行い、年1回の「図書ビンゴ（またはすごろく）」達成者にはしおりやぬりえ等をプレゼントする。

（3）図書ボランティアの活動

・読み聞かせ

月に1回、図書ボランティアの皆さんが全学級に読み聞かせを行っている。季節や発達段階に合わせた本が選定されており、今年度は高学年に釜石市の艦砲射撃の歴史を伝講していただいた。

・図書室の環境整備

学校地域支援コーディネーターとともに、季節に合った装飾をしていただいている。

・新刊本の受け入れ作業

パソコンでの台帳入力、ブックコート、貸出バーコード貼付などの作業をお願いしている。

（4）図書室の環境

図書室入口付近に、新しく入った本や読み聞かせで紹介された本を配架している。並行読書を促すため「ぼうさい」「郷土の本」「すがたをかえる食べ物」など教科書を基にしたコーナーを用意した。本の表紙を見せた置き方などの工夫もし、選書しやすい環境を整えている。

（5）家庭との連携

週末課題として家庭で読書に取り組むことを提示している。夏休みと冬休みには、親子で同じ本を読み感想を交流する「親子読書」に取り組む。面談期間は保護者も図書室を利用できる（貸出2冊）。

3 成果と課題

〈成果〉

- ・ 図書室の環境整備や読み聞かせを設けることで、本への興味・関心が育っている。

〈課題〉

- ・ 読書への意欲が低く、学年相応の選書ができない。中学年向け以上の読み物を読む児童がほぼいない。
- ・ 担任の声掛けがないと本を借りない児童が多い。児童が進んで図書室へ向かうような手立てを考える。
- ・ 情報の古い本が多い。並行読書や調べ学習を行いやすいよう、予算内で本を揃える必要がある。

1 学校図書館の概要

本校は、今年度 150 周年を迎えた児童数 100 名、8 学級（特別支援学級 2）の学校である。図書館は 2 階のオープンスペース及び隣接する和室の二か所に分けて設けられている。和室では休み時間にゆっくり談話したり本を読んだりすることができる。学校図書館の蔵書数は 1 0 5 7 9 冊である。

2 具体的実践内容

(1) まなびフェストを中心とした取り組み

子どもたちは…読書の時間は、集中して本を読みます。
学校では …定期的に読み聞かせの機会を設けます。
家庭では …親子で読書をする時間を作りましょう。

① 目標冊数の設定

多読賞の目標として学期ごとに、低学年（25+35+20）冊、中学年（25+30+20）冊、高学年（20+25+15）冊とし、それを基に個人の目標を設定し達成を目指させ、読書の質や量を高める。

② 週末読書の取り組み

週末は全学年、音読の代わりに読書に取り組み、音読カードに記入する。また、通常は 1 度に 1 冊の貸し出しとし、週末（金曜日が不可能な場合は木曜日）は 1 度に 2 冊まで本を借りることができる。

(2) 図書委員会による取り組み

日常活動としての図書の貸し出しの他に年間計画で「本の読み聞かせ」「スペシャルイベント」「おすすめの本の紹介」「多読賞の表彰」などを行い、児童が本や図書館に親しめるよう工夫して活動している。

(3) 図書支援員、読み聞かせボランティアの活動

① 学級図書の充実

教科書で紹介されている本や関連図書を整理し、学級図書に多めに配架し、児童が本を手に取りやすい環境づくりを行う。

② 読み聞かせ

本校の読み聞かせボランティア（地域の方）として、毎月 1～2 回程度各学年において読み聞かせを行う。



③ 図書コーナーの掲示・配架

新刊図書やおすすめの本が手に取りやすいように、オープンスペースの読書テーブルに並べておき、いつでも手に取り座って読めるようにする。

④ 「いわ 100 きっず」の活用

2 階ホールにコーナーを設置し、活用できるようにする。また、6 年間を通しての必読図書とし、図書カードファイルに一覧表を挟み、読んだら印をつけるようにする。

3 成果と課題

- 新刊図書やおすすめの本の配架を工夫したことで、児童の目に付きやすく貸し出しの回転率が上がった。
- 教科書で紹介されている本や関連図書を学級図書として多く配架することで、学習で活用することができた。
- 図書委員会のスペシャルイベントで、様々なジャンルの本を入れたビンゴを作成し、貸し出しの際に活用することで、普段あまり手にしない本に触れることができた。
- 週末読書として家庭での読書の取り組みを行ったが、家庭の読書量が少ないという保護者評価だったので、読書週間や長期休業中の親子読書等の工夫も検討していきたい。
- 「行って読書をしたい。」と思えるような環境整備を継続して行う。

「読書に親しみ、進んで読書をする習慣を身に付けるために」

下北地区SLA 岩泉町立岩泉小学校

1 学校図書館の概要

本校は、全校児童163人の小規模校である。校舎のほぼ中央に図書室があり、どの学年からも利用しやすい位置にある。蔵書数は約10000冊と豊富であり、毎年新刊図書も50冊から100冊程度入り、児童のニーズに合った蔵書も増やすことができている。数多くの蔵書の中から読みたい本が探せるように、ボランティアの方の環境整備活動や読み聞かせ・本の修理、図書委員会の児童による図書紹介なども行っている。

また、今年度は国語教材の関連図書の精選を行い、各学級に学級文庫として整備・配架した。



2 具体的活動内容

(1) 年間読書目標冊数の設定と読書記録カードの活用

・年間の読書目標冊数を、低学年70冊、中学年50冊、高学年30冊(3000ページ)と設定し、読書終了時には記録カードに記録するようにしている。学年末に、目標達成者に達成賞を渡している。



図書委員会主催の「読書まつり」の掲示

(2) 朝読書の実施

・毎週月曜日の朝学習の時間15分を朝読書の時間として、全校で読書活動を行っている。

(3) 親子読書

・長期休業中に、親子で読書に親しむ時間をもつことをねらいとして、取組を行っている。図書だよりで親子の感想や読んだ本の書名や出版社名を紹介し、家庭を巻き込んだ活動となっている。



図書委員会児童による読み聞かせとおすすめ図書の紹介

(4) 図書委員会による活動

・わくわく読書として、図書委員が低学年に読み聞かせを行っている。
・11月を読書祭り月間と位置付け、図書委員会児童や先生方による読み聞かせ、読書クイズ、読書ビンゴなどの取組を行っている。



図書ボランティアの方の読み聞かせと本の修理作業

(5) 町立図書館との連携

・団体貸し出し図書「かもしか号」を利用し、様々な図書に触れるようにしている。また、町立図書館主催の「読書マラソン」に毎年取り組み、読書の幅を広げている。

(6) 図書ボランティアの協力

・保護者や地域の協力を得て、図書室の本の修理や環境整備、読み聞かせなどをしていただいている。



3 成果と課題

(1) 成果

・図書に関係した組織を生かして様々な活動を行い、読書意欲の向上につなげることができた。
・いつでもどこでも誰でも読書できるように、学校全体の読書環境を整えることができた。

(2) 課題

・まず「読書すること」を目標に読書冊数に目を向けた活動を行ってきたが、どんな本をどのように読書するのか、児童の発達段階に合わせた本の選定をし、家庭の協力も得ながら取組をしていく必要がある。



図書貸出作業の様子

「本に親しむ子供の育成」

久慈地区S L A 洋野町立林郷小学校

1 学校図書館の概要

本校は明治9年創立、今年度149年目を迎える歴史が長い学校であり、全校児童数19名の小規模校である。図書室は、校舎2階の静かな環境にあり、向かい側のホールの一隅にも図鑑をはじめとする多数の本が置かれている。また、各教室にも学級文庫と町立大野図書館「ひばり号」から貸し出された本が設置され、本が常に身近にある環境になっている。「まなびフェスト」にも情操を育む活動の一環として読書活動を位置付けており、学校・家庭・地域で協力し、子供たちが本に親しむことができるよう取り組んでいる。

2 具体的実践内容

(1) 学校での取り組み

① 年間読書冊数の目標の設定

個人の目標を設定し、読んだ本の題名を記入していくファイル「わたしの読書」を活用している。学年ごとに目標冊数（低学年100冊以上、中学年70冊以上、高学年40冊以上）をもとに個人目標を設定し、学年末に記録賞として表彰している。

② 読書の時間の設定

朝活動の10分（時期によっては運動）、木曜日の昼休みの後10分は読書の時間として設定している。常に本が身近にあり、本に親しむことができるようにしている。

③ 図書委員会の活動

金曜日の全校本借りの取り組み（週末読書）、木曜日の読書タイムでのブックトーク、図書祭りの企画・運営により、本に親しむ児童が増えた。



ブックトーク



ブックトーク



図書祭り

(2) 家庭での取り組み

長期休業における親子読書の取り組み

親子で本共通の本を読み「親子読書カード」に記入し、読書に親しんでいる。

(3) 地域での取り組み

図書ボランティア「ききみみずきん」の読み聞かせ

図書祭りでの読み聞かせ、影絵・人形劇・手遊びなどの出し物、図書委員会とのクイズの共演などにより、本に対する興味・関心が高まってきた。

3 成果と課題

(1) 成果

全校での週末読書の習慣化、読書タイムでのブックトーク、図書祭りなどを通して、本に親しみ、楽しく読書に取り組む児童が増えた。また、児童数に対して豊富な本の数や種類があり、教科の学習とタイアップした読書ができた。様々な種類の本が身近にある環境を整えることができ、児童が本を手取る機会も増えた。

(2) 課題

学校でも家庭でも読書の時間を日常的に確保する工夫や取り組みを重ねていきたい。

児童の「読みたい、知りたい」を支える図書館運営

二戸地区 SLA 一戸町立一戸小学校

1 学校図書館の概要

本校は、普通学級7、特別支援学級2、児童数164名である。蔵書数は、約1万4千冊を誇り、毎年潤沢な児童用図書予算がつく。本校は、伝統的に読書に対する意識が高い。それを支えているのは、豊富な蔵書である。図書室の書架にはたくさんの本が並び、児童の読書意欲を高める要因の1つとなっている。毎年、目標冊数が提示されるが、ほとんどの児童が達成している。蔵書は全てバーコード管理がされており、一戸町立図書館から本の選択、購入、管理、運営に至るまで支援や助言をいただいている。また、本校の図書館運営は、学校司書1名、図書担当1名、計2名で運営している。

2 具体的実践内容

(1) 年間読書冊数の目標設定

低学年80冊、中学年60冊、高学年40冊を設定している。令和6年度の達成率は、98.8%。

(2) 毎月の企画展

毎月の行事に関連する図書を展示する。蔵書の不足分は一戸町立図書館から借りて展示している。特に好評だったのが「御所野縄文遺跡」をテーマにした企画展である。御所野縄文博物館からレプリカの土器、弓矢、パネルを借り、図書室を縄文時代へとタイムスリップさせた。展示品から興味をもち、縄文関連の本を手にする児童が続出した。

(3) 読書月間での多彩な取り組み

11月を読書月間と位置付け、今年度は大型絵本の読み聞かせ、図書ビンゴ、本の紹介カード、図書クイズを行うことでイベント色を打ち出し、読書月間を盛り上げることができた。今年度、先生が推薦した本の紹介カードを見て本を借りる児童が目立った。

(4) 図書館司書と保護者ボランティアによる支援

毎月、図書館司書が来校し図書館運営や新刊図書の購入等について幅広く相談に乗ってくださっている。また、ブックトーク、移動図書ミニ分館も行っている。学期末には保護者ボランティアを募り、本の修理、クリーニングをお願いしている。

(5) 学校司書と図書担当の役割分担

学校司書は、新刊図書の購入と受け入れと廃棄、図書室装飾、蔵書の管理、毎月の企画展を行い、図書担当は、図書委員会の指導、読書月間の取組の準備、児童の利用指導を行っている。

学校司書は本の知識や情報が豊富で児童の読書傾向を常に把握している。来館した児童に司書が「この本面白いよ。読んでみて。」と個別に声をかけたり、児童から「○○の本を探しています。」「○○の本を買ってください。」とリクエストされたりするなど司書とのやりとりを通して読書に興味をもった児童が多数いる。

(6) 学級での本借り

休み時間に本の貸し出しを行っている。すき間時間を利用し、担任が児童を引率して本の貸し借りに来ることが慣例となっている。結果、どの児童も一律に本に親しむ機会となっている。

3 今後に向けて

- ・多彩な取組、豊富な蔵書、円滑な運営に支えられ、児童の読書意欲や意識は高いまま推移していることが「岩手県子どもの読書状況調査」の結果から分かっている。今後も、児童の「読みたい、知りたい」を支える図書館運営に努めたい。
- ・児童の読書傾向を調べてみると、話題になった本に集中している。名作や岩手県出身の作家の本も多数あるが、なかなか手に取る機会に恵まれない。他校の実践を参考にしながら、幅広い読書ができるようにしたい。
- ・学校では本を読んでいるが、家庭では読まれていない実態が明らかになった。その原因を保護者と共有し読書の習慣化を図りたい。

「学校図書館運営について」

盛岡地区 SLA 盛岡市立北陵中学校

1 学校図書館の概要

本校は、学級数16(1~3年13、特別支援3)生徒数438名で、図書館の蔵書数は約10,000冊である。学校図書館運営は図書委員会と学校司書が中心に行っている。

学校図書館は校舎改修工事に伴い、校舎2階から3階に移動した。

昼休みの借り換えや読書での利用の他、授業での調べ学習や相談室を利用する生徒の読書の場としても利用されている。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書の取り組み

通年で朝読書に取り組んでいる。8時20分~8時30分の10分間を朝読書の時間とし、図書館から借りた本や各自が準備してきた本を読んでいる。

(2) 委員会活動

図書委員は各学級から1名ずつ選出された生徒で構成されており、以下の活動を行っている。

① 本の貸し出しと返却

昼休みに、各学年から1人ずつ割り当てられている当番が図書館に来て担当している。

② 多読者表彰

6月の約1か月間の貸し出し冊数を集計し、多読者の表彰を行った。(1学期)

③ おすすめの本の案内

図書委員がおすすめの本について紹介文を書き、各学年の廊下に展示した。(2学期)

(3) 学校司書による取り組み

- ・図書館内の整備、図書の選書、廃棄、新刊の案内、掲示物の作成、委員会活動のサポートなど
- ・調べ学習のための本を廊下に展示(学校図書館内の本、公の図書館から借りた本)

↓県立図書館1(AI)ルームの本(廊下に展示)



↓校内の本(廊下に展示)



↓生徒と学校司書で行った管内展示



3 成果と課題

〈成果〉

- ・新刊などの案内と展示により、生徒が興味を示して図書館を利用している。
- ・公の図書館から借りた本も調べ学習に使用し、生徒が進んで学習するために役立っている。

〈課題〉

- ・PC登録が途中なので、引き続き進める。
- ・各学年の廊下に置いてある国語辞典・漢字辞典の整理を行う。

1 学校図書館の概要

本校は、学級数8（各学年2・特別支援2）、全校生徒数132名の学校である。図書はバーコードで管理されており、蔵書数は約7,000冊である。生徒の図書室利用は主に昼休みであるが、給食当番や歯磨きの時間に割かれると、図書貸出しを行う情報委員や一般生徒が滞在できる時間は10～15分程度である。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書

毎朝8:20～30の10分間行っている。持参した本や情報委員の選書による学級文庫から好きな本を読み、一日の始まりを落ち着いたものに行っている。学期はじめの「図書室で朝読書」取組で学級ごとに図書室利用を行い、**連携図書館**からの書籍も展示し、朝読書用図書を借りる時間を設けて読書活動の充実を目指している。図書リストにも「お勧めコメント」を載せ、興味を持たせる工夫をした。



(2) 学級文庫

情報委員が選書した15冊を一定期間ごとの入れ替え制で常設し、国語科で選書した授業・教科書関連の図書も常設し、**並行読書**ができるようにしている。



(3) 委員会活動

常時活動として、昼休みの図書の貸し出し、学級文庫の入れ替えを行っている。また、会報や昼の放送を利用して、**新刊案内**やお勧めの本の紹介にも取り組んでいる。学期ごとの**多読賞 (MVB=Most Valuable Bookworm: 最も素晴らしい読書家)** 表彰と年間10冊以上の図書室利用読書 (**10VB**) 表彰を行っている。長期休み中の読書も含めて集計し、次学期に表彰を行うことで、読書数の増加を図ってきた。昨年度、全校**TOP MVB**表彰生徒の年間読破数は132冊であった。



(4) 教科との関連

長期休暇前に、国語科において、図書に関する生徒間での情報交流を目的に、**おすすめの図書スピーチ発表会**を実施している。

(5) 図書支援員との連携

町の**図書支援員**が毎週来校し、**蔵書点検**や**環境整備**を行っている。季節ごとに**デコレーション表示**や**レイアウト**を変え、生徒が本を手に取りやすいようきめ細かく対応していただいている。



(6) 地域図書館との連携

町立図書館と今年度初めて連携を行った。生徒や先生おすすめのリクエスト本を含め、町図書館独自の**中学生へおすすめの30冊を2週間貸出し**てもらった。貸出し管理システムが違うため、**連携用バーコード**を新たに準備して対応した。

県立図書館からは、**酪農体験行事の事前学習**として酪農関係書籍70冊を貸出しもらい学年フロアに常設して利用したり、15年目を迎える**東日本大震災関連資料**30冊を全校生徒で利用したりして、豊富な読書環境で学ぶことができた。



3 成果と課題

- 昨年度に比べ、図書室利用の生徒や貸出し読書総数が増えている。リクエストや話題の新刊を毎年150～200冊蔵書に加えていることや、町立/県立図書館との連携で読みたい本との出会いが増えたことが理由と思われる。
- 一部ではあるが、生徒同士で本を話題にしたり、多読賞を目指して自己ベスト読書数を増やそうと意識したりする場面が見られるようになった。
- 昼休みが短く図書室の利用に限られるので、朝読書の時間を活用した図書貸出しや学級文庫でできるだけ多くの本、多様なジャンルの本に触れられるよう工夫したい。

「読書意欲を高めるために」

八幡平地区 S L A 八幡平市立西根学校

1 学校図書館の概要

本校は全校生徒229名で、図書室は2階に位置している。図書の貸し出しは昼休み、図書委員が行っている。週に1度、図書館司書が来校し、図書室の整備、新館図書の選定や受付、紹介を行っている。図書室が狭く、座席が少ないために授業での活用が難しい。



2 具体的実践内容

(1) 朝読書の時間の設定（全校朝会のある日以外の8:15～8:25）

(2) 新刊の紹介

生徒昇降口に新刊の紹介の掲示、図書室には新刊コーナーを設け、読書意欲の喚起を図っている。

(3) 学級巡回図書

図書委員が本を選び、学級図書として教室の棚に置き、朝読書の時間等も活用を目指している。2ヶ月に1度の割合で、図書の入れ替えを行っている。

(3) 全校生徒対象の希望図書アンケートの実施

今年度初めてアンケートを行い、結果を生かして図書の購入を行った。

(4) 3年生によるお薦めの本紹介の掲示

夏休み中に読んだ本の紹介文を書き、図書室前の廊下に掲示し、読書意欲を高める活動を行った。



新刊図書の紹介



学級巡回図書



3年生お薦めの本

3 成果と課題

◎朝読書が習慣化されており、中には休み時間に読書に取り組む生徒も見受けられる。

◎図書館司書の配置により、図書の購入や新刊の紹介、図書室整備が滞りなく行われている。

◎紹介文作りでは、他の生徒が何を read のか気になったようで、読書意欲の喚起に多少繋がったと思われる。

●図書室の利用数が大幅に増えたわけではなく、今後も使用数増加に向け取り組みが必要である。

●朝読書はするものの、それ以外の時間に読書する生徒が少なく、相変わらず読書離れが顕著である。

「小中で読書に親しみ、安心して過ごせる図書室づくり」をめざして

紫波地区 SLA 紫波町立紫波第二中学校

1 学校図書室の概要

基本データ

児童数 148 名 生徒数 92 名 教職員数 38 名 (小学校 19 名 中学校 19 名)

蔵書数 17,055 冊 (学園) 年間貸出冊数 15,219 冊 (学園 R6)

本校の図書室は、1階(小学生側校舎)にあり、蔵書は全てデータベース化されている。業間と昼休みに開館していて、小中学生の図書委員が本の貸出や整理を行っている。また、学校司書が週1回来校し、季節に応じた展示や図書室内の装飾など、児童生徒が楽しく利用しやすいように環境整備を行っている。

図書室の奥には「ほっとルーム」として、主に別室登校の生徒が使用する学習スペースを確保している。



2 具体的実践内容

(1) 図書館環境整備

分類番号や作者を五十音順に表示し、本を見付けやすく配置している。

(2) 朝読書・読み聞かせ

小学生は毎週月、火曜日、中学生は毎週月曜に朝読書を行っている。また、今年度は中学生の図書委員による読み聞かせを低学年と図書室で実施している。(低学年への読み聞かせは9月に、図書室での読み聞かせは読書祭り期間に実施) 図書室内で実施した読み聞かせでは、小学生中学生関係なく、楽しんでいた。

(3) 中学生図書委員会の活動

① 小学校低学年への読み聞かせ(9月)

中学生の図書委員が

小学校1年、2年教室に出向き、読み聞かせを行っている。



② 図書祭りの実施(11月)

小中合同で図書祭りを開催した。中学生は【図書委員おすすめの本】としてPOPを制作し、本と一緒に展示した。また、昼休みに図書室内で読み聞かせを実施した。今後は定期的に図書室内で読み聞かせや展示を実施していく予定である。

③ 学級文庫の選書

各学級に配置している学級文庫の選書と管理を行っている。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・図書委員を中心に、学園全体の児童生徒が読書に興味をもてるような活動を行うことができた。
- ・学校司書を中心に、図書室の環境整備や本の修繕を行うことができた。

(2) 課題

- ・読書をもっとしたいと思えるような環境整備を継続して行う。
- ・年間を通して、もっと読書人口を増やしていくこと。

1 学校図書館の概要

本校は、生徒数166名、8学級の中規模校です。図書館は1階にあり、利用しやすくゆとりある造りとなっています。また、学校司書さんに校内の共有スペースに「おすすめ図書」配架していただいています。図書委員会による本の貸し出しは昼休みに行っており、読書スペースで読書をしている生徒も見られます。

2 具体的実践内容

(1) 「東和図書館」と連携した取り組み



生徒の読書意欲の向上や地域と交流した学びを推進するため、今年度より、長年の課題であった東和図書館と連携した取組を行っています。

東和図書館の館長さん、司書さんに委員会に参加して頂き、テーマ展示のためのPOPや掲示物の作り方を教えていただきました。

後日、司書さんと図書委員とで、東和図書館の本も加えて、館内に「冬をテーマ」としたお勧め図書コーナーを設置しました。

(2) 新刊図書の購入・紹介、寄贈図書。

図書委員長がロイロノートで「新刊図書の希望アンケート」を取り、新刊図書の購入を行っています。図書委員や担当教師だけでは、思いつかない本が多くあり、本当に今読みたい本が配架されるようになりました。新刊図書は、学校司書さんのご協力で入口側に配架していただいています。

また、国境なき医師団としてもご活躍されていた東梅久子氏（本校 昭和53年卒業 第18回生）より寄贈いただいた本も特設コーナーに配架しています。



(3) 利用しやすい環境

本校の図書館は屋内用マットが敷かれていますが、上靴のまま入室が可能です。靴を脱ぐ必要がないため、昼休みや放課後に気軽に立ち寄りやすくなっています。

3 成果と課題

(1) 成果

「東和図書館と連携したテーマ展示」や「ロイロノートによる新刊図書の希望アンケート」「学校司書さんによる配架整備」「寄贈図書」により、生徒の読書への意欲が高まりました。

(2) 課題

本をあまり読まない生徒も読書に親しんだり図書室を利用したりするよう、読書意欲を喚起していきたいです。

「読書活動を通して、夢拓く遠中生の育成」

遠野地区S L A 遠野市立遠野中学校

1 学校図書館の概要

本校は、世界的にも有名な「遠野物語」でも紹介されている早池峰山を仰ぐ遠野市の中央に校舎がある。全校319名の学校である。学校のキャッチフレーズを「座敷わらしの居る学校」とし、3中学校が統合し12年目を迎えた。地区は、附馬牛・綾織・遠野の3地区であり、学区の小学校では、綾で織る作品づくりや太鼓・しし踊り・遠野の物語等の表現活動に熱心に取り組んでいる。中学生になっても培った力を活かし多くのことに意欲的に取り組んでいる。

図書室は昇降口からすぐの中央階段を登り、2階のオープンスペースにあり、全校生徒が気軽に足を運びやすい場所である。図書利用だけでなく、憩いの場所としても利用されている。図書委員会の生徒が昼休みに当番制で貸し出しを行っている。

2 具体的実践内容

☆日常の活動

今年度は、特別支援学級の生徒たちの手助けもあり、黒板には季節のイラストを掲示したものを活用させてもらったり、小黒板にちょっとした言葉を添えて「テーマ展示」「季節に合わせたディスプレイ」「新刊図書の紹介コーナー」など、生徒の関心を引くように環境を整えてきた。本の帯などを廊下に掲示し、図書室に足を運び、本を手に取りやすいように工夫してきた。

図書委員会も多くの本との出会いを呼びかけたり、長期の休みには本の紹介のための「読書カード」づくりを実施したり活動をしている。



9月は「科学の扉をノックする」 12月は「こたつの中で読みたい本」クリスマス掲示は特別支援学級さんの作品です。

☆PTA企画事業

子育て応援委員会企画による第1回「おススメマンガPR選手権」を7月に実施した。ビブリオバトル遠中版。公募し、マンガ本を4名の保護者の方が紹介した。発表後、投票が行われた。参加者からは、「本の魅力が分かった。」「中学生に読んでもらうなら考えた過程がとても楽しかった。」「図書室や図書館に興味をもってもらいたいのので子どもの好きそうな本を選考していきたいと思った。」「次は、テイストの違う本も紹介してみたい。」等の感想が寄せられた。その後、相談し図書室に『おすすめマンガ本』を購入した。



☆その他の活動

- ・朝読書の時間には、小説を中心に全校生徒が読書に没頭する時間とした。
- ・週に一度「よむYOMUワークシート」を活用し考えや意見を書く活動に取り組んでいる。
- ・毎月11日前後は、復興教育の一環として「いきる・かかわる・そなえる」を朝読書の時間に読んでいる。

3 成果と課題

〈成果〉

- ・読書教育担当者と図書委員会と担当者が連携し活動を展開したことが、遠野中学校の図書館教育の推進に繋がったこと。

〈課題〉

- ・本校は書架の配列を移動することが出来ないため、環境整備に工夫を要する必要がある。環境を整えながら、更なる図書室利用の促進を図っていきたい。

1 学校図書館の概要

本校は、全校生徒287名の中規模校である。図書館は、2学年棟と続いた2階奥にあるが、昼休みは多くの生徒が訪れ、憩いの場になっている。蔵書約10000冊を、例年除籍と新刊図書の購入で200冊以上入れ替え、生徒が本を手に取りやすい書架を目指している。

2 具体的実践内容

(1) 図書館ボランティアとの連携

不定期で、図書館ボランティアさんにきていただき、館内の整備をお願いしている。クリスマスや、入学・卒業、ハロウィンなど季節に合った装飾をしてくださっており、装飾を楽しみに図書室を訪れる生徒も多い。ボランティアとしての豊富なご経験を活かし、蔵書点検や、本のコーティング、書架の整理など図書館運営に欠かせない業務にも携わっていただいている。



(2) 朝読書

毎日、8:20～8:30に全校で朝読書の時間を設けている。読む本は、図書館の本に限らないが、図書委員会が選んだ学級文庫の本を読んでいる生徒も少なくない。このように読書の時間を確保することは、忙しく過ごす中学生の読書へのきっかけづくりになると考える。

(3) 図書委員会の活動

ア 学級文庫（オアシス）選び

月に一度の委員会で、各学級に置く学級文庫を10冊ずつ選んでいる。朝読書の本としても、活用されている。

イ 昼の図書室運営

昼休みに図書館を開館し、貸し出しや返却の業務を行っている。

ウ 生徒会執行部との連携

今年度は、生徒会として8月のテーマを「食育」と設定した。図書委員会では、そのテーマに沿った本を集め「食育本コーナー」を設置し、全校の食への意識を高めた。



3 成果と課題

(1) 成果

図書館ボランティアさんとの連携や、委員会の活発な活動、読書の時間の確保など様々な面からのアプローチにより、昼休みに図書館を訪れる生徒が多い。このことから、本に親しむことができる環境づくりを進められたと考える。

(2) 課題

図書館の利用者が多い一方、本を借りる生徒は少なく、昼休み限りの利用になってしまっている。また、図書館の利用マナーや返却の状況にも課題がある。図書委員会とも協力しながら、多くの生徒が本に親しむと同時に、本当に本を読みたい生徒が安心して読書できる学校図書館を目指していきたい。

1 学校図書館の概要



本校は全校生徒 390 名、学級数 18(特別支援学級 6 を含む)、蔵書数は、11,691 冊である。学校図書館は普通教室棟と特別教室棟の間の 2 階中央に位置し、館内外の図書や掲示物は学校司書が整備し、学習図書委員会活動も活発である。また、「わかる・できる」が実感できる授業づくりと基礎・基本の定着を図る学習習慣の一環として、朝読書・家庭学習に集中して取り組むこと、年間読書冊数 30 冊以上を目指すことを目指して、教科学習に直結した図書館運営と、読書経験の拡大を図る取り組みを行っている。

2 具体的実践内容

(1) 日常的な図書館利用につなぐ年間を通じた計画的な本の紹介

- ① 図書館オリエンテーション
- ② 教師のお薦めの本「読書へのいざない」
本校全教職員がお薦めの本を紹介し、冊子として生徒の手元へ届けている。
- ③ 学習図書委員会の「お薦めの本企画」
夏休み中の読書を学習図書委員が紹介し、学級の仲間と読書体験を共有している。
- ④ 本のリクエストによる図書購入
- ⑤ 学校図書館サイレントウィーク(音楽を流す取組み)
- ⑥ 昼の放送の活用
ノベルミュージック(本にまつわる曲と本の紹介)、ALT と学習図書委員長による英語の本の読み聞かせ



(2) 読書に関する各種コンクールへの参加

- ① 「お気に入りの一冊をあなたへ」、読書感想文、標語コンクールへの全校参加
学習図書委員会の活動として、全校体制で各種コンクールに取り組んでいる。
- ② 美術部有志による「手作り絵本」制作
生徒のオリジナルや地域の伝承を題材にした作品などがある。地域の学校 6 校に作品を寄贈し、よりよい作品づくりへの意欲につながっている。
- ③ POP制作と地域の学校との「POP」交流
夏休みの委員会活動として取り組み、コンテストへの応募や近隣の中学校・高校等との交流をとおして技術的にも学びがあり年々レベルアップしている。



(3) 読書を通じた地域の団体との交流

市、地域のボランティア団体による「読み聞かせ」と「ブックトーク」により紹介された本や、ポップと本を展示することで、生徒は本との出会いを楽しんでいる。

3 成果と課題



【成果】

- ・「お薦めの本」を学校図書館に展示・貸出しすることにより、少し難しい本に挑戦する生徒や、仲間と共有する生徒が増え、豊かな読書体験の一助となっている。
- ・全校体制で各種コンクールに取り組むことにより、生徒が図書館を利用するきっかけとなった。また、優れた作品の掲示から学び、積極的に取り組む生徒が増えてきた。

- ・活動ごとに本の展示が変わり、図書館がリフレッシュされ活気が出ている。

【課題】

- ・委員会活動の充実と他の活動との兼ね合い、時間の確保が難しくなっている。
- ・校舎改築に伴い、学校図書館の「学習・情報センター」としての機能の充実を図りたい。

1 学校図書館の概要

本校は、生徒数209名、学級数11（特別支援学級3）の中学校である。図書館は廊下と区切られずオープンなスペースとして設置されており、生徒が利用しやすい環境である。現在の蔵書冊数は9,500冊であり、生徒数に対して十分な量である。読書普及員と協力し、生徒の読書意欲の喚起に努めている。

2 具体的実践内容

(1) 読書環境の整備

①朝読書の実施…朝会の日を除く毎日8時25分から8時35分までの10分間、読書習慣を身に付ける目的で朝読書の時間を設けている。読む本は、各学級に設置された学級文庫、担任が用意したもの、持参したものなど様々である。どの生徒も時間になると本を準備し、落ち着いて読書に取り組むことができている。

②図書委員会による委員会活動

ア 各学級の図書委員が学級文庫の選定を行っている。1～3年生まで全学級35冊である。生徒が選ぶことで、次回の選定の際に生徒の声を反映しやすくなる。

イ おすすめの本を紹介する「ポップ作成」を行っている。各学級2部ずつ作成し、図書館に本とセットで掲示している。魅力的なポップにより、生徒が本を手に取りやすい環境になっている。



(2) 連携を生かした取り組みの推進

①読書普及員との連携…本校では、週2回勤務する読書普及員が、図書教育担当と相談して図書購入や選書、図書館の環境整備を行っている。廊下の一区画を利用した新着本の紹介や、本のリクエストなどを行い、生徒にとって身近で、親しみやすい図書館を目指した環境整備に努めている。

②地域図書館との連携…5月から1月まで毎月1回、地域図書館による出張貸出を行っている。貸出車には「わかこま号」と「なぎさ号」の2種類があり、20分間の昼休みを利用して貸出を行う。

移動図書館である「なぎさ号」では、本に囲まれた車内で好きな本を複数借りることができる。多くの生徒に本への関心を持たせるきっかけとなっている。



3 成果と課題

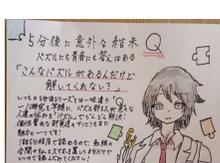
(1) 成果…毎日の10分間の朝読書の実施により、生徒一人一人の読書習慣が身に付いている。また、委員会活動や読書普及員による図書館の環境整備は、本校の図書館運営の要としての役割をしっかりと果たしている。移動図書館来校時の生徒による呼びかけや、図書委員による学級文庫の選定など、生徒が主体的に活動に関わる機会を設けることができた。

(2) 課題…本のリクエストを行っていることを知らない生徒もいる。前述までのところと合わせた、図書委員から呼びかけを行ったり、図書館の掲示物の位置を工夫したりしながら、より生徒が身近に感じられる学校図書館の環境整備に力を入れる必要がある。今後は、図書委員だけでなく、生徒や教職員が読んだ本を紹介したり、教科における図書館利用を増やしたりするなどして、より多くの場面で学校図書館を活用し、身近なものにしていきたい。

1 学校図書館の概要

本校は全校生徒 154 名、学級数 6、支援学級 2、計 8 学級の学校である。学校図書館は、校舎 2 階東側にある。蔵書数 15,434 冊で、必要冊数を十分に満たしている。

図書教育指導員の配置を受けており、図書購入、蔵書管理、読書指導などで協力を得ている。



2 具体的実践内容

「読書に親しみ、自ら教養を高めていく生徒、心豊かな生徒の育成」を目標に掲げ、主体的な読書を進めている。本年度は「環境を整え、本に親しむ生徒の育成」を図ることを重点に取り組んでいる。

<p>① 朝読書 全校で毎朝 15 分取り組んだ。1 年生は、1 学期、集団読書用の冊子 20 冊以上読破に挑戦し達成した。</p>	<p>② 実店舗での選書活動 全校生徒対象に校内での実選書、図書委員対象に実店舗での選書を実施。生徒が読みたい本の購入を目指した。</p>	<p>③ 新刊図書ワゴンコーナーの設置 教室前廊下に、新刊図書を設置、いつでも本に手が届く環境づくりにしている。</p>
<p>④ 学級文庫の設置 図書委員会で学級文庫の箱をリメイク。覗いてみたくなる学級文庫を設置した。</p>	<p>⑤ 新刊図書紹介 昼の放送による紹介、ポップ掲示による紹介を実施した。図書委員の意欲も高まった。</p>	<p>⑥ 教科書本コーナー 国語の教科書に掲載されている本のコーナーを設置した。</p>
<p>⑦ 押し本紹介 2, 3 年生の国語では、「押し本」紹介を実施。「いわ 100」にも応募し、読書への関心を高めた。</p>	<p>⑧ 図書教育指導員との協力 国語科と授業連携。調べ方学習、読み聞かせなどを企画実施した。また、各コーナーの設置も依頼した。</p>	

3 成果と課題

【成果】

- ・行ってみたい学校図書館、居心地のいい学校図書館を心がけ、図書購入の段階から、なるべく多くの生徒が関われるよう努めた。昼休み来館者は、昨年度と比較し、1ヶ月あたりのべ100人以上増加、4月からはのべ745人増加した。
- ・国語科との連携により、各学年で読書に対する授業を取り入れたことで、読書に対する意欲の高まりが感じられた。
- ・放送による新刊図書紹介、実店舗での選書活動、ポップ作りなど、委員会活動の活発化が図られた。地味な活動だけでなく、新たな活動により、自信を持って取り組む生徒が増えたことも、来館者の増加に役立っている。

【課題】

- ・学校図書館の利用者には、偏りが見られる。より多くの生徒の利用を促す意味でも、さらなる工夫が必要である。
- ・学年の取り組みとした集団読書用の本を20冊以上読む活動など、全校の取り組みとして取り組んでいくことで、読書をするという習慣をつけていきたい。

1 学校図書館の概要



- (1) 生徒数107名、全校7学級（特別支援学級を含む）。
- (2) 図書室は校舎正面2階に設置されている。日当たりがよく、仕切りがガラスになっているため廊下から室内がよく見える。3箇所で大机とイスを配置し、学習できるスペースも設けている。昼休みには、リラックスした雰囲気、本のページを繰る生徒の姿が見られる。
- (3) 赤崎・綾里の2校統合により令和3年に創設された新設校であることから図書室の環境は大変充実している。蔵書冊数は9,539冊（令和7年12月現在）と少ないが、比較的新しく、話題になっている本が多い。また、コミックも豊富で生徒にとって魅力的な蔵書となっている。
- (4) 今年度の「まなびフェスト」に「年間読書冊数12冊以上の生徒」を掲げ、読書活動の推進に努めている。
- (5) 昼休みの図書の貸し出し、書架の整備は、図書委員会の活動が軸となっている。
- (6) 蔵書管理はすべてデータ化されており、引き当てや廃棄の処理などは図書支援員を活用している。

2 具体的実践内容

(1) 図書館利用の工夫

ア 配架の工夫

生徒が興味をもって手に取るように配架を工夫している。入り口近くに新刊書や入荷本、季節などのテーマを設定し配架している。また、面陳列や、「帯」の掲示など、生徒の目を引くことを意識した陳列や展示も行っている。室内にもテーマ展示があり、学習やスポーツなど生徒の興味や関心を考慮したコーナーを作っている。「いわ100」に掲載されている本については棚を設け、生徒の目に入るように配架した。

入室すると利用案内の掲示、書架の側面には分類番号による配架案内が提示されており、本の探索に役立つ。

イ 委員会活動の活発化

図書室の利用率の向上を目標に、貸し出し業務や、図書だよりの発行の他、「企画展」「宝探し」「図書ビンゴ」「しおりプレゼント」など、利用推進のための様々な活動を生徒が企画し行っている。

ウ 本の購入アンケート

委員会の活動の1つとしているが、年に1回、本を購入する前に、全校生徒に読みたい本や、図書館に置いて欲しい本のアンケートをとり、本の購入の選定の参考にしている。また、職員の要望を聞き、授業でも図書室が活用できるようにしている。

エ 子どもたちの「居場所」の提供

図書室は、教室内の固定された人間関係から離れ、生徒が自分だけの時間を過ごしたり、学年や学級の異なる人との関わりをもったりすることのできる場になる。生徒たちが安心して過ごせる「居場所」になるように、担当者ができるかぎり図書室にいるように努めている。

(2) 読書活動の工夫

ア 朝読書の実施

毎日8:15～8:30の15分間、全校一斉に朝読書を実施している。読む本については生徒が持参してもよいが、図書室の利用につなげるため、学級ごとに週替わりで図書室での朝読書を行うことを始めた。また、月末に読書記録を生活ノートに記入させ、読書意欲の向上を図っている。

(3) 市立図書館の利用

定期的に市立図書館から本を借り、「学級文庫」を設置している。



3 成果と課題

(1) 成果

配架の工夫や委員会の活動、選書の方法、図書支援員の活用により、利用しやすい環境が整っている。また、朝読書を図書室で行ったことで、利用率の向上には至っていないが蔵書の種類や本校の図書室のよさを生徒に感じさせることができた。

(2) 課題

図書室の利用率が読書量の増加に直接つながるわけではないが、更に利用率の向上に努めていく。そのために、書籍における情報の発信場所としての役割を果たせるよう更に利用しやすい図書室にするために、どのような工夫が必要か検討していく。

「進んで読書に取り組む生徒の育成を目指して」

釜石・大槌地区S L A 大槌町立吉里吉里中学校

1 学校図書館の概要

所在地：岩手県上閉伊郡大槌町吉里吉里1-215 教職員数：13人 全校生徒：27人
蔵書数：3964冊 今年度貸出冊数：269冊（12月22日時点、学級文庫用の貸し出し含む）

【目標】

- (1) 読書指導の充実によって、豊かな人間性を培う。
- (2) 図書の活字に親しみ、語彙を習得するとともに国語能力を高める。
- (3) 読書により思考の習慣をつけるとともに、目的に応じて適切な図書を選択し、進んで読書をする習慣を形成する。

【本年度の重点】

- (1) 図書利用の機会を生かし、意欲的な読書活動の高揚を図る。
- (2) 望ましい図書館の運営を行なうために、委員会活動の活性化を図る。
- (3) ラーニングコモンズに則り、学習・話し合い活動・制作活動の場としての利用を推進する。

2 具体的実践内容

(1) 全校の取り組み

- ・朝読書の実施
- ・新聞week（各学期1回の新聞スクラップの実施）
- ・町営図書館企画『推し本』参加

(3) 図書館担当教諭の取組

- ・本の整理整頓の常時活動
- ・図書室企画の発案、運営
- ・購入する書籍の検討

(2) 図書委員会の取組

- ・本の貸し出し、返却、整理整頓の常時活動
- ・新入生への図書館使用ガイダンス
- ・学級文庫の入れ替え
- ・委員会通信の発行
- ・図書室企画、新聞 week の運営
- ・季節に合う別置展示コーナーの管理
- ・『図書館だより』の発行
- ・別置展示コーナーの管理
- ・書店の出張訪問依頼



3 成果（○）と課題（△）、今後の展望

- 今年度より図書室を常時開放したことで、集会や憩いの場として図書室を利用する生徒が増加した。
- 普段目に入らない本を別置として展示することで、本の貸し出し冊数も増加した。
- 新聞weekを通して、言語活動に必要な知識・技能を養わせ、活字に親しませることができた。
- △ 朝読書のみの読書にとどまり、自身の興味関心に基づいた能動的な読書をする生徒が少ない。
- △ 岩手県の平均読書冊数4.4冊/月（2024）を満たす生徒が少ない可能性が高い。
（本校平均0.79冊/月、図書室からの貸し出し分のみで算出）

今後の展望

常時開放と特別展示により利用は増加しましたが、能動的読書への移行が本校の課題である。生徒主体の書評や展示企画をキッカケとした内発的動機に基づく読書の促進を今後のねらいとし、岩手県平均読書冊数4.4冊超を目標に、図書室を生徒の主体的な学びを支える場として提供していきたい。

「生徒が本に親しみ、意欲的に読書したくなる環境づくり」

宮古地区S L A 宮古市立新里中学校

1 学校図書館の概要

本校は、生徒数36名、4学級（特別支援学級1）からなる。図書室は2階にある。朝や昼休みに、学習委員会が中心となって図書室の利用を行っている。毎朝8時15分から15分間の「朝読書」を行っており、多くの生徒が図書室の本を利用している。



2 具体的実践内容

(1)学習委員会による取り組み

ア 「多読賞」の表彰

毎学期の終わりに、各学年と全校のなかから、最も多く図書室の本を読んだ生徒を表彰している。生徒が意欲的に読書に取り組む一助となっている。

イ 「オススメの本紹介」

学習委員がオススメする本や、先生方のオススメする本を紹介する。生徒が普段は自分で手に取らないような本とも出会えるきっかけとなっている。



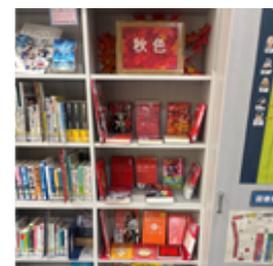
(2)図書支援員、図書ボランティアの取り組み

ア 図書の配置

図書室内の生徒がよく目にする場所に、新刊本コーナーや、映画化・メディア化された本、本屋大賞を受賞した本を配置している。今では図書室に来た生徒が、自然とそのコーナーに注目するようになっている。

イ 図書室の掲示物

季節に合わせた掲示物によって、生徒の興味を引くように工夫している。季節の行事に関する本や、季節に合った表紙の色の本など、その工夫は様々で、生徒が飽きない図書室となっている。



ウ 教室前の図書ラック

各学年の教室前の廊下に図書ラックを設置している。置いてある本はその学年の国語の教科書に関係する本となっている。生徒が授業内で興味を持ったとき、そのまますぐ廊下で関係する本を手にとれるようになっており、利用している生徒も多い。

(3)家庭との連携

各長期休みにPTAの活動の一環として「親子読書」を行っている。それに合わせて、毎学期の終わりに行われる三者面談の際に、保護者も図書室の本を利用できるようにしている。普段はなかなか読書する時間を確保できない保護者の皆さんも、生徒と同じ本を読んだり、子どもと読書する時間を共有したりすることで、親子の絆も深まっている。

3 成果と課題

様々な取り組みにより、生徒たちは落ち着いて読書に取り組んでいる。朝読書以外の時間に読書している生徒も見受けられる。

昼休みに様々な活動が行われることも多く、昼休みに図書室を利用する生徒が多いとは言えない。また、各教科とも連携しながら、多くの場面で図書室を利用し、図書室のハードルを下げたい。

「本を身近に感じられる図書室・取り組みを目指して」

岩泉地区 SLA 岩泉町立小川中学校

1 学校図書館の概要

本校は、全校生徒35名の学校である。図書室は校舎の2階、吹き抜け部分に面した校舎の中央に位置している。岩泉町立図書館の図書支援員の方々を中心に蔵書の整理や古い本の処分を行った。そして、ジャンルごとに本を整理し、生徒が読みたい本を見つけやすいように環境を整えた。新刊図書は生徒が手に取りやすいように入り口付近に置いている。図書室には長机や全校生徒分のイスも設置されており、休み時間などに自由に利用できるようになっている。

2 具体的実践内容

(1) 図書室へ足を運ぶ機会を増やす

全校生徒が教室ではなく図書室に集まって朝読書・朝学習に取り組んでいる。図書室に来る機会が増え、朝学習が終わった人から読書をするなど、本に触れやすい環境になった。

(2) 学習委員会の活動

学習委員会が中心となって、読書を推進する取り組みを行っている。

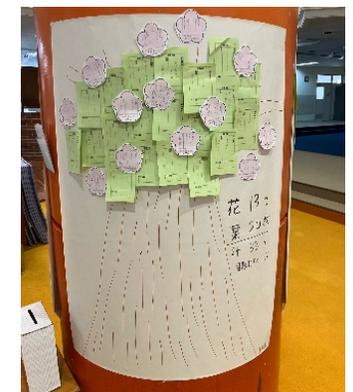
- ・「読書の木」 …木の葉に見立てた黄緑色のカードに読んだ本のタイトルを書いて模造紙に貼り、大きな木の完成を目指す。
- ・「読書の日」 …毎月1日、10～15分自宅で読書をする日を設定し、読書する活動。
- ・「読書リレー」 …学年ごとに読んだページに応じて1マス色を塗っていくすごろく。
- ・「おすすめ本紹介」 …全校朝会で学習委員会を中心におすすめ本を紹介する活動。 等

(3) 読み聞かせの実施

年に2回、朝活動の時間に、中学生にもおすすめの絵本の読み聞かせを行った。活字が苦手な生徒にとっても本に親しみ、本に興味を持つきっかけとなった。

(4) 岩泉町立図書館との連携

移動図書館「かもしか号」を利用し、各学級毎月20冊の本を借りている。生徒は学校に所蔵されていない本を読むことができる。また、年4回の図書室支援派遣を受け、購入本の受付作業や蔵書整理を行っていただいた。生徒が本に興味を持てるような図書室運営の助言をいただき、今後は3.11に合わせた防災コーナーやおすすめ本のPOP作りなどを行う予定となっている。



3 成果と課題

成果

- ・教室ではかもしか号の本を、朝学習では図書室の本を、僅かな空き時間でも本を手に取り読書しやすい環境になった。
- ・学習委員会の取り組みをはじめ、本に親しむ活動を活発に行ったことで、本に興味を持つ生徒が増えた。生徒が読みたい本を見つけるきっかけを作ることができた。

課題

- ・図書室へ来室する機会は増えたが、本の貸し出し数の増加や家庭での読書習慣の定着にはあまりつながらなかった。
- ・図書室は自由に開放されているが、冷暖房の設備がないため夏季や冬季は特に足を運びにくい場所となっている。生徒が休み時間にも気軽に利用できる場所になるよう、環境を整えられるとよい。
- ・各活動と図書室運営を連携して行えるようにする。(おすすめ本や読み聞かせの本を展示するコーナーを設ける 等)

「読書に親しむ生徒の育成 ～地域コーディネーターとの連携を通して～」

久慈地区S L A 洋野町立大野中学校

1 学校図書館の概要

本校は平成23年に大野第一中学校と大野第二中学校が統合・開校し、今年度14年目を迎える。全校生徒102名、7学級（特別支援学級含む）の学校である。図書室は2階教室棟から体育館への渡り廊下中途にあり、生徒の往来が多く、利用しやすい場所である。また、各教室には町立図書館「ひばり号」から貸し出された本が設置され、本を選びやすい環境になっている。

本校には令和3年度から地域コーディネーターが配置されており、地域と学校との連携を通して、コンサートやダンス、物作りなど、様々なイベントを行ったり、例えば職場体験の際に、地域の企業との連携を引き受けるなどの活動を行っていただいている。また、図書館教育とも連携を行っており、読書に親しむ生徒の育成という観点で、連携し、活動を行ってきた。

【写真①】



2 具体的実践内容

(1) 朝の読み聞かせ

毎月1回、朝の活動の時間の10分間、地域の方にいらしていただき、読み聞かせをしていただいている。毎回、行事や発達段階に合わせた本を用意して下さるので、生徒たちが本に親しむ機会となっている。

(2) 図書室環境の整備

写真①は渡り廊下や新刊コーナーに用いた掲示やブックスタンドである。図書委員会の活動時間や昼休み時間に図書委員とともに作成していただいております。親しみやすい図書室環境作りの一助となっている。

【写真②】



(3) 「影絵」の会

毎年冬に人形劇を行っており、昨年度は「星の王子様」、今年度は「にじいろのさかな」を上映した。図書委員の活動として2～3週間程度の取り組みを地域の方々と行い、発表している。生徒だけではなく、多くの地域の方々にも参加していただいております。本の世界に親しむ良い機会となっている（写真②・写真③）。

【写真③】



3 成果と課題

(1) 成果

地域の人的資源と学校のニーズをつなげていただくことで、読書環境の整備に役立っている。また、本に親しむ活動を通して、本校生徒が読書に親しむことができるようになってきている。

(2) 課題

地域の人的資源と学校のニーズを一致させるためには、対話が重要となるが、多忙のため時間を捻出することが難しい。また、蔵書整備など、学校のニーズがあっても、地域にその活動に応じることが難しいケースもある。これからも生徒が読書に親しむことができる読書環境のため、連携をし、活動をしていきたい。

1 学校図書館の概要

学級数7（1、2年2学級、3年生1学級、特別支援2学級）生徒数110名の本校図書館は校舎1階にあり、生徒が利用しやすい場所に位置している。蔵書は、6,179冊で蔵書率は78%である。今年度から、蔵書はすべてバーコード管理され、ポケット図書館で蔵書は簡単に検索、管理することができる。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書の取組

毎朝8:20～8:30までの10分間、図書室から借りた本や持参した本、図書委員会が毎月入れ替えをする学級文庫から選んだ本を読書している。

(2) 読書感想文コンクールへの取組

読書に親しみ、自分の考えを発信する力を高めるため、地区読書感想文コンクールに全校で取り組んでいる。

(3) 委員会の活動

日常の貸出活動に加え、図書室にある本をより多く知ってもらい、一人でも多くの生徒に読書に親しんでもらうことをねらいとして、今年度は、本の紹介活動に積極的に取り組んでいる。

- ・「おすすめの本紹介」：先生方におすすめの本をインタビューし、インタビューした内容は昇降口のディスプレイを使って表示した。また、長期休みには、委員が自分の家族におすすめの本をインタビューする活動も今年度新たに取り入れた。

- ・「My Book Story ～あなたに届ける本の物語～」

月初めの朝読書の時間に「読書の記録」に今月読む本を記入し、月終わりには、読んだ本の感想、評価を記入する。それを写真に撮って、ロイロノートに提出させ、全校に紹介する活動を、生徒会執行部とタイアップして行う。

(4) ビブリオバトル

1年生の国語の授業で、ビブリオバトルを行った。「人を通して本を知る。本を通して人を知る」のキャッチフレーズの通り、友達の紹介する本に興味をもち、熱意をもって本を薦める友達の新しい面を知る良い機会となるとともに、生徒たちが読書を楽しみ、読書への意欲を高める活動になった。

(5) 図書支援員との連携

村教育委員会所属の図書支援員が月に1～2回来校し、蔵書点検や環境整備を行っている。生徒の実態に合わせた図書の選定や季節に合わせた図書室の掲示など、生徒が本を手に取りやすいよう対応していただいている。

3 成果と課題

- バーコードシステムが整備されたことで、以前よりも本の貸し借りが簡易化され、利用率の向上につながった。

- ▲ バーコードシステムからわかる生徒の読書傾向などのデータを来年度の図書購入などに活かしたい。